



大島事業所トピック

No. 314

島しょ農林水産総合センター大島事業所発行
〒100-0212 東京都大島町波浮港18
Tel 04992 (4) 0381 Fax 04992 (4) 0383
ホームページ <http://www.ifarc.metro.tokyo.jp>

平成18年9月25日

三宅島のマクサに復活の兆しが！

--- 平成18年5～7月の三宅島テングサ調査結果 ---

大島事業所では、三宅島の磯根資源の重要種であり、噴火前まで最も水揚げの多かったテングサの着生状況調査を行い、良好なオオブサ着生状況とマクサの回復状況を確認しました。

・オオブサ（アラメ）の着生状況は良好！

調査地点は三宅島沿岸域の41地点で、水深0～2mの波打ち際に生育しているオオブサ（地方名：アラメ）と水深10m以浅のマクサ（地方名：ケグサ、スギグサ）について調査しました。この結果、オオブサは昨年同様、島の北西部から北東部にかけての岩礁帯で広範囲に群落形成されているのが確認でき、噴火後順調に回復していました。藻丈は長く、藻体には付着物が少ないため、品質は良好でした（[図1](#)、[写真1](#)）。

・マクサ（ケグサ）の回復状況は？

一方、マクサはオオブサと比べると全体的に回復は遅れていますが、昨年と比較して全体的には明らかに着生量は増えていました。特に、北西部の岩礁帯では比較的まとまった群落形成されていました（[写真2](#)）。しかしながら、全体的にはまだ着生量は少ない状態が続いています（[図1](#)）。また、ほとんど漁業の対象にはなっていませんが、オバクサも今年になって急激に回復し、主に北西部から北東部にかけて広範囲に群落形成されていました。

三宅島は「テングサの島」と言われる位テングサ漁業が有名です。テングサ漁業は昨

年より行われており、当所では三宅島のテングサの着生状況について、引き続き調査を続けて行く予定です。また、回復の遅れている島の東側でマクサを増やすために、今年度中にコンクリート製の構造物（海藻礁）を試験的に投入する予定です。三宅島のマクサがさらに着生してくれることを期待しています。



写真1 良好な着生状況のオオブサ群落

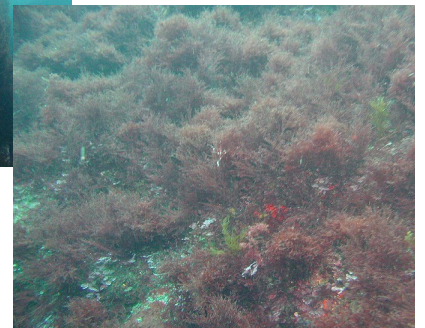


写真2 回復傾向にあるマクサの群落

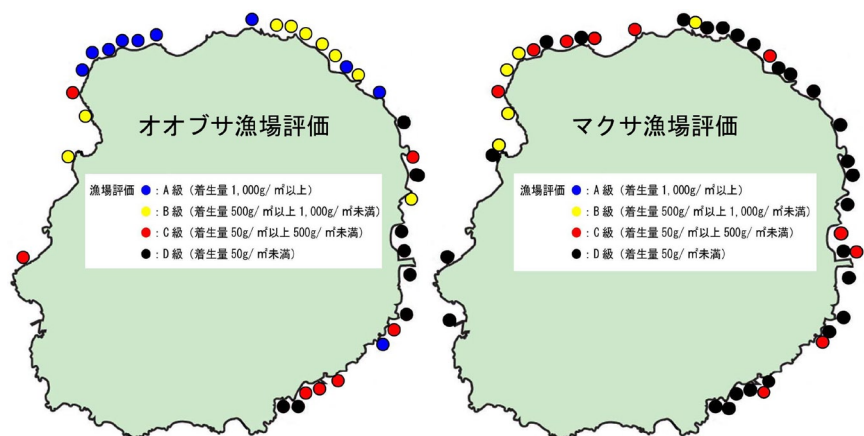


図1 2006年の三宅島テングサ着生状況調査結果